

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新しく開校した知的障がい支援学校として、地域や関係機関及び府立とりかい高等支援学校との連携を深める中で、一人ひとりの児童・生徒の障がいや発達の状態に応じた、最も必要で適切な教育実践校をめざす。

1 「笑顔きらめく 元気な学校」

基礎的・基本的な事柄を大切に、「わかってうれしい」「できてうれしい」を体感し、達成感を積み上げることで、児童生徒の自己肯定感・自尊感情を育てます

2 「君の得意を見つけて 伸ばそういいところ」

児童生徒一人ひとりの障がいの状況を的確に把握し、適切な支援を行うため、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、保護者や関係機関と連携し、教育活動を展開します。

3 「つながる心 つなげよう未来へ」

児童生徒会活動を通じ、同年齢・異年齢間の交流を図ります。児童生徒の社会的・職業的自立に向け、小学部段階から個々の発達に応じたキャリア教育を進めます。

2 中期的目標

1 知的障がい支援学校としての専門性向上

(教務部・総務部情報G・支援・研究G・指導部・各学部)

(1) 自閉症及び自閉傾向のある児童・生徒の授業や学校行事等における様々な指導方法及び家庭支援の在り方について、研修と研究の充実を図り、知的障がい支援学校としての専門性と教師力の向上をめざす。

※ 研究授業を自主的・積極的に行う中、気軽に意見交換し、互いに授業研究(情報機器を活用した授業づくり等)を深めあえる職場環境を構築する。さらに、それぞれが研究した教材については、お互いに共有・活用できるように「教材のライブラリー化」を図る。

※ 授業力向上に向けて、授業参観週間(1学期)・研究授業週間(2学期)・公開授業週間(3学期)を設定し、保護者・教員及び地域の関係機関のみなさまが積極的に授業見学できる校内体制の充実・定着を図る。

※ 全国的な研修会を含め、積極的に研修に参加できる環境を整備する。研修会参加後は、必ず校内で伝達講習を行い、学校力の向上に努める。

(2) 児童生徒たちの人権意識の高揚を図り、自己肯定感、自尊感情を育む。

※ 「ほめて育てる」教育の実践及び保護者への連絡・連携を密にした「寄り添う教育」の実践に取り組む。

※ SST(ソーシャルスキルトレーニング)等を積極的に活用し、人権意識・マナー等の高揚を図る。

※ 教職員の人権研修を学期に一度、年3回実施する。初年度から継続して「子どもたちの自己肯定感・自尊感情の育むために」を重点課題とする。

(3) 児童生徒の学部学年を越えた活動及び地域の学校間交流を積極的に実施する。

※ 積極的な児童生徒会活動の実践。全校交流会を児童生徒会行事として年間予定表に位置づける。学部間の交流授業を計画的に実施する。

※ 学校間交流、居住地交流を推進する。小学部は鳥飼小・鳥飼東小・柱本小と、中学部は摂津5中と、高等部は北摂つばさ高等学校と交流を図る。

2 「個別の教育支援計画」の充実及びセンター的機能の発揮

(教務部・支援部)

(1) 「個別の教育支援計画」について研究と研修を進める中で、個々の児童生徒への支援を具体化し、「個別の指導計画」との関連性を深めながら、有効かつ機能的なものへと深化させる。

※ 「個別の指導計画」は前・後期で評価し、保護者に10月・3月に通知(開示)する。その中で個々の児童生徒への支援内容・手だてを明確にし、共通理解を図るとともに、保護者との連携・協力を深める。「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について保護者対象学習会実施。

(2) 学校の教育目標を具体化し、個々の「個別の教育支援計画」に取り入れ、保護者及び関係機関との連携を図りながら、高等部卒業後の社会自立に向け、総合的かつ継続的な支援ネットワークの定着をめざす。

※ 「個別の教育支援計画」活用リーフレットを作成。卒業生・保護者及び進路先に配付し、支援ネットワークの定着をめざす。

3 小学部から高等部卒業までのキャリア教育を通じた社会的自立の支援

(首席・部主事・進路指導部・教育課程検討委員会・職業コースPT・キャリア教育PT)

(1) 小学部・中学部・高等部において「キャリア発達の観点」を整理し、系統的で一貫した本校独自のキャリア教育プログラムを実践する。

※ 26年度は「キャリア教育マトリックス(摂津版)」を各部の教育課程に位置づけ、試行する。27年度には「学校案内」「学部案内」にも反映する。

(2) 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、学校周辺地域との連携を深め、知的障がい教育の充実・発展を図る。

※ とりかい高等支援学校との協力・連携に努めながら、互いにキャリア教育の充実・発展を図る。

※ 高等部卒業時の就労率60%以上をめざす。(長期休業期間に教員全員による職場開拓を行い、職場実習先の企業を増やす)

(3) 高等部の生徒にアビリンピックへの参加を促し、実践力の向上を図る。

※ 校内でのジョブリンピックを実施し、生徒のあいさつ運動・清掃・接客マナーの充実を図る。

4 支援教育のセンター校としての充実

(支援・研究部、リーディングスタッフ・コーディネーター)

(1) 地域支援センター校として、巡回相談や支援教育に関わる情報発信の充実を図り、多種多様なニーズに応える支援体制を確立する。

※ 平成26年度は「地域支援室」を試行的に開室する。

5 地域に愛され、地域の中で育つ「開かれた学校」の構築

(首席・部主事・総務部・保健部・指導部・高等部職業コース)

(1) ホームページの充実を図ると共に地域向け広報誌を積極的に発行する。(広報誌「きらめき」を月1回発行し、地域自治会に配付する)

※ 地域・関係機関をはじめ、多くの方々に対して、積極的な情報発信に努め、地域に愛される安全で安心な「開かれた学校」をめざす。

(2) 「花いっぱいコミュニティづくり」に取り組む。(大阪府茨木土木事務所、大阪府池田土木事務所、摂津市公園みどり課と連携を継続する。)

※ 授業で花苗の栽培に取り組むとともに、地域の関係機関とも連携しながら「花いっぱいコミュニティづくり」を積極的に展開する。

※ ひまわりの栽培(「摂津支援から笑顔と元気をとどけようプロジェクト」)を通して、東北や福島など被災地の学校との交流(つながり)を図る。石巻市の大川小学校の保護者が被災した子どもたちを偲んで栽培された「ひまわり」の種を名古屋短期大学の「みんなに笑顔をとどけ隊」を通じて入手し、本校の子どもたちがその栽培に取り組む。また、「福島ひまわり里親プロジェクト」から種を購入し、その栽培にも取り組む。ひまわりには除染作用があり、栽培後の種を福島に送り届ける。

(3) 校内に保護者、地域のみなさまで賑わう「憩いの場」づくりに取り組む。(授業参観、PTA行事、学校祭、作品展などの機会に実施する)

※ 接客マナーの実践の場として、喫茶販売実習室を有効に活用する。とりかい高等支援と連携して、「憩いの場(喫茶)」の定着をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 26 年 11 月実施分〕	学校協議会からの意見
<p><提出率> 【保護者】 小学部 78.9% (56/71 名) 中学部 79.4% (50/63 名) 高等部 60.6% (60/99 名) 【児童生徒】 小学部 8.0% (6/71 名) 中学部 84.1% (53/63 名) 高等部 80.1% (80/99 名) 【教職員】 100.0% (112/112 名)</p> <p><結果報告> A よく当てはまる B やや当てはまる C あまり当てはまらない D 全く当てはまらない</p> <p>【保護者】 全 30 項目 ○ A+B が、90%台 20 項目、80%台 8 項目、70%台 1 項目で、昨年度と同様または肯定的な%が上昇した項目が多かった。 ○ 昨年度と比較して肯定的な%が特に上昇した項目：学校は子どものことについて保護者の悩みや相談に適切に応じてくれる(A が+13%)。給食の食材や献立は配慮・工夫されている(AB で+13%)。学校からは地震や台風等の場合について家庭に知らされている (A が+12%) ○ 肯定的な%が低い項目(A+B)：学校の HP をよく見る(24%で昨年度とほぼ同様)。 ○ 意見より抜粋：居住地校交流の際に常に教員の付添いがほしい。プール登校日を増やしてほしい。教員の児童生徒に対する乱暴な言葉遣いや態度を改め指導力をアップしてほしい。校内表示を分かりやすくしてほしい。進路に関する施設等からの説明会をしてほしい。 【児童生徒】 児童用：全 8 項目(イラスト)、生徒用：全 22 項目 ○ 昨年度と同様または肯定的な%が上昇した項目が多かった。 ○ 昨年度と比較して肯定的な%が上昇した項目(A+B)：先生は問題を見逃さず考えてくれ相談しやすい(+16%)。体育祭、学校祭、宿泊行事等の学校行事は楽しみである(+16%)。 ○ 肯定的な%が低い項目(A+B)：環境、国際理解、福祉ボランティア等について学習する機会がある(+15%)。学校の HP をよく見る(23%で昨年度とほぼ同様) ○ 意見より抜粋：皆が時間を守るようにチャイムがあった方がよい。プールの回数を増やしてほしい。もっと遊具を増やしてほしい。バス内でのトラブルを解決してほしい。ミシンの勉強をしたい。 【教職員】 全 51 項目 ○ 昨年度と同様または肯定的な%が上昇した項目が多く、A+B が 10%以上上昇した項目が 17 あった。 ○ 昨年度と比較して肯定的な%が特に上昇した項目(A+B)：各教科の備品や教材教具が適切に配置され活用されている(+22%)。コンピュータ等の ICT 機器が各教科の授業等で活用されている(+18%)。職員会議をはじめ部会や学年会が教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している(+18%) ○ 昨年度と比較して肯定的な%が下降した項目(A+B)：清掃活動がいきとどいて(-16%)。これは、技師が 2 名から 1 名に減少したこと、授業の中で清掃活動を行う高等部職業コースの生徒数が減少したことが要因と考えられる。 ○ 意見より抜粋：目的を持って教育活動を行うため教員の意思統一が必要。子どもの発達段階に応じた心理の把握や発達障がい理解を深めることが必要。本校は教員の特技や個性が発揮しやすい環境、これからもこのまま進んでほしい。</p> <p><学校の分析と次年度に向けての課題> ○ 昨年度の反省をいかし、保護者・児童生徒・教職員三者の横断的比較ができるように項目を整理した。そのため、三者間での共通項や差が顕著な項目が明確になった。 ○ 昨年度の結果から、交流活動の充実が今年度の大きな課題であった。「近隣の学校や地域の人々との交流の機会がある」の項目について、A+B が、保護者+15%、児童生徒+16%、教職員+24%と三者とも上昇した。これは、近隣の学校に積極的に声をかけることで交流の機会を増やしたこと、地域の催しに意欲的に参加したこと等の結果だと考えられる。また今年度後半からは“きょうだい学年制度”を設定し、3学部間での授業交流も活発に行われつつある。この1年の交流活動(学校間交流・地域交流・学部間交流)のまとめを、当該部署の指導部交流グループ長より報告した。 ○ 主な意見については、学校からの回答を、集計結果と共に報告した。</p> <p><2月19日 学校協議会からの意見> ○ 教職員の提出率が、昨年度 81.6%のところ、今年度 100%だったのは素晴らしいことである。 ○ 結果の分析が分かりやすかった。 ○ 課題を明確にして取り組んでいる姿勢が伝わった。</p>	<p>年間テーマ『新しく開校した知的障がい支援学校としての本校の現状と課題について』 〔第1回 6月20日実施〕 ○ 今年度の学校経営計画について ・ 地域交流に関して、摂津市では、摂津第五中学校が年2回、つながり集会を実施している。本校も、教員や子どもたちの参加を考えてはどうか。 ・ キャリア教育、SST について、具体的にどのような取組みをしているのか知りたい。 ○ 今年度の使用教科書の選定・採択について：・どのように教科書を選定しているのか、具体的に知りたい。・子どもに合わせて、慎重、適切に選定していると思われる。 ○ 小学部・中学部・高等部の授業見学 ・ 支援学校の授業は初めて見学したが、先生方はたいへんな仕事だと感じた。 ・ 見学した授業には重度の多動の子どもはいなかったが、どう対応しているのか。 ・ 廊下等が広く、空間にゆったり感があり、重度の子どもたちにも良いのでは思った。 ・ 小中学部で活動内容をカード等で示し、見通しが持てる授業をしていて良かった。 ・ 書くときの姿勢等、体幹がしっかりしていない子どもがいて気になった。いろいろなトレーニングを取り入れてみてはどうか。 ・ 授業見学できる機会はあまりないので、今回は貴重な機会となった。 ○ 全体を通して：学校協議会では、委員が学校の様子を見て意見を述べ、それを子どもたちのために役立てていただきたいと考えている。そのため、機会をとらえて行事やふだんの授業を見せてもらうのが良いかと思う。 〔第2回 11月21日実施〕 ○ 体育祭について、保護者アンケートの結果報告 ・ 当日は、雨の中、子どもたちが頑張っていたのが印象的だった。 ・ アンケート集計は、グラフ化した方が見やすく、わかりやすい。 ・ アンケート結果の提出率は、全保護者数から割り出されているが、見学者数からみると、より高い提出率になっている。 ・ アンケート結果の中で、小学部と高等部とで数値に差が出ているところは、子どもの年齢、成長の違いかもしれない。子どもは成長とともに体育祭への理解が深まり、参加する意識も変わってきているのではないかとと思われる。 ・ 体育祭の実施時期については、保護者の理解を図っておく必要がある。 ○ 児童生徒の下校の様子を見学 ・ 校門からの通学バス、放課後ディサービス車の送り出しは、道路に出て通行車両を止める係の先生方もたいへんだと感じた。 ・ 運行途中にイレギュラーなことが発生した場合はどう対応しているのか。 ・ 保護者と通学バス運行会社との懇談会は、どのように行われているのか。 ・ 契約会社は何社か。また、通学バスは日中、学校に駐車してあるのか。 ○ 学校教育自己診断の12月実施に向けて ・ 昨年度の回収率はどうだったか。・「本校の学校教育目標を実現しようとしている」という、そのものずばりの項目がほしい。・結果の分析では、保護者、児童生徒、教職員の横断的質問の差を見ること、また経年変化を見ていくことが大事である。形骸化させないように注意し、意義ある自己診断をお願いしたい。 ○ 夏季休業中の承認研修の報告 ・ 研修の中に、医療少年院の施設見学があるが、児童生徒にどう還元されているのか。犯罪を防止するための教育等に活かされているのか。 ・ これらの研修を、他の教職員に返す機会はあるのか。 ・ 資料文書に「夏季休業期間中等」とあるが、「等」の意味はなにか。 ・ 外部からは分かりにくい制度であるが、うまく活用して学校教育に活かしてほしい。 ○ 保護者意見書「自動販売機を設置してほしい」についての学校の方針等について ・ 高校には、自動販売機は当たり前のようにある。同様の環境を設定してほしい。 ・ 他の支援学校はどうしているのかも知りたい。 ・ 学校としては、当面は設置しない方向を出したということだが、保護者にきちんと説明する必要がある。 ○ 全体を通して：今回は下校の様子を見ることができ、充実した協議会となった。機会をとらえて行事やふだんの授業を見せてもらい、意見を伝え、よりよい学校づくりのために協力していきたい。 〔第3回 2月19日実施〕 ○ 学校教育自己診断の結果報告と次年度に向けて：左欄に記入 ○ 次年度使用の教科書選定について：小学部、中学部、高等部の平成 27 年度使用教科書(選定、採択)について、学校協議会として了承する。 ○ 高等部 3 年生の進路状況について：現時点で企業就労 62.2% (23/37 名) ・ 福祉就労 8 名。未定者 6 名の進路が早く決まってほしい。 ○ 12 月に生じた体罰事象についての報告とその後の対応について ・ 個別指導をする場所は決めておく。・障がい理解、視覚支援やユニバーサルデザインの活用等、教員の研修が必要である。・担任と教科担当者との連携を深め、児童生徒の情報を共有しておくことが大切である。・今回の件で、他の教員が委縮してしまうのではないかと心配する。どういう指導が適正か、最も効果的かを十分考えてほしい。また、どういう指導に効果があったのか、常に振り返る意識が必要である。 ○ 全体を通して：体罰事象の件をはじめ、非常に貴重な意見を出していただいて有意義であった。</p>

府立摂津支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
知的障がい支援学校としての専門性向上	<p>(1)教員一人ひとりの授業力を高める。 ア 保護者との連携 イ 授業研究及び研究授業の充実</p> <p>(2)児童生徒たちの人権意識の高揚を図り、自己肯定感、自尊感情を育む。 ウ 作品展示の充実 エ 教材教具の充実</p> <p>(3)児童生徒が学部学年の枠を越えた活動を実施する。 オ 交流活動の充実</p>	<p>ア 定期的な授業参観・懇談会を行い、保護者との連携を深め、学校が情報や意見の交換の場となるよう「開かれた学校」をめざす。</p> <p>イ 教員一人ひとりが年1回以上の研究授業を行う。初任者においては、年2回以上の研究授業を行う。</p> <p>ウ 「ほめて育てる」教育を実践する。児童生徒作品などを校内に展示し、子どもたちの活動を肌で感じる学校づくりに取り組む。</p> <p>エ 教材研究を積極的に行い、共用・活用できる職場環境を構築する。</p> <p>オ 同年齢・異年齢の交流活動の推進を図る。 ・全校あげての児童生徒会活動に取り組む。 ・学部間交流、学校間交流、居住地交流に積極的に取り組む。</p>	<p>ア 定期的な授業参観及び授業参観週間を行い、その度に授業アンケートを実施し、検証する。</p> <p>イ 研究授業週間、公開授業週間を実施し、その効果を検証する。</p> <p>ウ 校内のいろいろなところに展示ブースを設け、児童生徒の作品を展示する。</p> <p>エ 教材教具のライブラリー化を図る</p> <p>オ 全校交流会を実施する。 ・交流授業を定期的実施する ・各部で学校間交流を実施する ・居住地交流を充実させる。</p>	<p>(ア)・参観週間(7/7~7/11)及び定期的な参観日において授業アンケート(7月以降)及び行事(体育祭・学校祭)アンケートを実施し、課題及び満足度を検証した。保護者との連携ツールで効果大。回収率に課題。(○)</p> <p>(イ)研究授業・公開授業週間は予定通りに実施した。外部人材を活用し、指導・助言を受けることで、教職員の専門性に対する意識向上等、一定の効果・成果につながった。(○)</p> <p>(ウ)効果的で充実感のある展示となった。(○)</p> <p>(エ)教材教具のライブラリー化は進行中であるが、共用・活用まで達していない。地域への紹介も含めて今後の課題である。(△)</p> <p>(オ)学部間交流・学校間交流・居住地交流ともに内容が充実し活性化できた。(○)</p>
「個別の教育支援計画」の充実	<p>(1)「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」との関連性を深め、個々の児童生徒への支援を具現化する。</p> <p>(2)「個別の教育支援計画」をツールに、保護者及び関係機関との連携を図り、高等部卒業後の社会自立に向け、継続的な支援ネットワークの定着をめざす。</p>	<p>(1)「個別の教育支援計画」の作成において、保護者との連携を深め、「個別の指導計画」と関連させながら、支援内容・手だてを明確にし、児童生徒が主体的に自立していけるよう指導・支援していく。</p> <p>(2)-1「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について保護者の理解を高め、その活用を促す。</p> <p>(2)-2「個別の教育支援計画」の活用リーフレットを卒業生、保護者及び進路先に配付し、継続的な支援ネットワークの定着を図る。</p>	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、本人・保護者のニーズを踏まえて作成されているどうかの肯定率90%をめざす。</p> <p>(2)-1「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の保護者対象学習会を実施する。</p> <p>(2)-2「個別の教育支援計画」活用リーフレットを2学期中に作成する。3学期に保護者及び進路先に配付し、有効な支援ツールとしての活用率を高める。</p>	<p>(1)・「個別の教育支援計画」の目標設定(短期・中期)において本人・保護者のニーズを十分に確認し、支援内容を具現化するとともに、「個別の指導計画」との関連性を深め、各教科・領域の目標との共有を図った。学校教育自己診断による肯定率94%(◎)</p> <p>(2)-1・保護者対象学習会は予定通りに1.2学期に実施し、その活用について理解を深めた。(○)※参加者が少ないのが、課題である。</p> <p>(2)-2・「個別の教育支援計画」活用リーフレットを作成し、全ての在籍児童生徒保護者に配付するとともに、必要に応じて地域の関係機関にも配付し、支援ツールとしての重要性の啓発に努めた。(○)</p>
小学部から高等部までのキャリア教育の充実	<p>(1)各部で実践しているキャリア発達の観点を整理し、教育課程に位置づける。 ア キャリア教育を柱にした教育課程の編成 イ 高等部卒業生の適切な進路選択・決定を図る。 ウ 職場開拓及び実習先の充実。 エ アビリンピックへの参加を促進</p>	<p>ア キャリア教育PTを中心として、知的障がい支援学校におけるキャリア発達の観点を整理し、系統的で一貫した教育課程を編成する。</p> <p>イ 高等部卒業生一人ひとりの特性に応じた適切な進路選択・決定を図る中で、より高い就労率をめざす。</p> <p>ウ 教員一人ひとりが、積極的に企業開拓を行い、実習先の拡大を図るとともに、将来的には雇用を前提とした企業開拓をめざす。</p> <p>エ 校内ジョブリンピックの充実を図り、自己肯定感を育むことで、アビリンピックへとつなげていく。また、接客マナーで学んだことを実践に活かすため、とりかい高等支援と連携を図りながら、喫茶販売実習室を有効に活用する。</p>	<p>ア「キャリアマトリックス(摂津版)」を各部の教育課程に位置づける。</p> <p>イ 高等部卒業学年の企業就労率60%をめざす。</p> <p>ウ 高等部教員全員で企業開拓に取り組み、新規の就労先3~5社を探す。</p> <p>エ 校内ジョブリンピックの成果を活かす場を意図的に設定する。また実践を通じて自信をもたせることで、アビリンピックへの積極的な参加を促す。</p>	<p>(ア)・キャリア教育PTにより各部(小・中・高)にキャリア発達の観点が位置づけられ、系統的で一貫した指導(挨拶・清掃)が実践され、その定着が図られた。(○)</p> <p>(イ)・高等部3年の企業就労率64%達成するとともに、一人ひとりの特性を重視した進路選択・決定へと導くことができた。(◎)</p> <p>(ウ)・夏期休業中に、高等部全教職員で企業開拓にあたり、新たな実習先を開拓した。(○)</p> <p>※新しく作成した「職場実習応援リーフレット」を開拓時に配付したことも効果があった。</p> <p>(エ)・高等部2.3年生の希望生徒がアビリンピックに参加し、金・銀・銅賞を受賞するとともに、企業就労への意識づけに繋がった。(○)</p>
支援教育のセンター校としての充実	<p>(1)地域支援センター校として、支援教育に関わる情報の発信を充実させる。 (2)地域支援の効果的な新たなあり方を検討する。</p>	<p>(1)-1 摂津市の小・中学校の巡回指導の徹底と支援活動の充実を図る。</p> <p>(1)-2 支援方法等について研修・研鑽を深め、支援できる教員の育成を図る。</p> <p>(2)摂津市教育委員会と連携を深め、効果的な地域支援のあり方を検討する。</p>	<p>(1)-1 巡回指導や支援活動を積極的に展開し、回数・内容等において昨年度以上の実績を上げる。</p> <p>(1)-2 地域支援室を試行的に開室し、相談業務に携わる中で教員の支援力向上に取り組む。</p> <p>(2)摂津市教育委員会と定期的に協議を行いながら、今後の支援体制の構築を図る。</p>	<p>(1)-1 摂津市の学校園との連携を深め、巡回指導・相談を積極的に進めていく中、継続的な支援活動や研修等を通じて教職員の専門性向上に努めた。支援教育のセンター校として一定の役割を担うことができた。巡回相談・電話相談43回、研修講師・会議30回(○)</p> <p>(1)-2 試行的開設を完了。次年度を見据えて、校内ケース会議などを積極的に展開し、地域支援室としての機能充実・支援力向上に努めた。(○)</p> <p>(2)関係諸機関との連携会議には積極的に出席し、ネットワークの構築に努めた。(○)</p>

府立摂津支援学校

<p>「開かれた学校」の構築</p>	<p>(1)ホームページの充実。 (2)「花いっぱい」活動の充実・発展。 (3)保護者や地域の方々に愛される学校をめざす。</p>	<p>(1)学校の最新の情報発信に努めると共に、地域向け広報誌「きらめき」を積極的に発行する。 (2)地域の関係機関と連携し、授業の中で花苗の栽培を行い、「花いっぱいのコミュニティーづくり」に取り組む。 (3)とりかい高等支援と連携を図りながら、喫茶販売実習室を、保護者や地域の方々に利用いただく「憩いの場（喫茶）」の定着をめざす。生徒にとっては接客マナーの実践の場とする。</p>	<p>(1)ブログ、ホームページ等を頻りに更新する。広報誌「きらめき」を月1回定期的に発行する。 (2)保護者、地域の方々を交えて、校内・校外の植栽活動を実施する。 (3)授業参観や学校行事等の時に「憩いの場（喫茶）」としてオープンし、接客マナーを実践する。</p>	<p>(1)・広報誌「きらめき」は、月に1回予定通りに発行。学校行事・学部行事等の様子を随時ブログに掲載（更新）しながらホームページの充実に努めた。(○) (2)・児童生徒による校内・校外の植栽活動は積極的に行えたが、保護者・地域の方々と交えての取り組みまで至らなかった。(△) (3)・授業参観・学校行事・学校見学等の際に喫茶を開き、接客マナー実践を行うことができた。地域の方々との交流が課題である。(△)</p>
--------------------	-----------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------